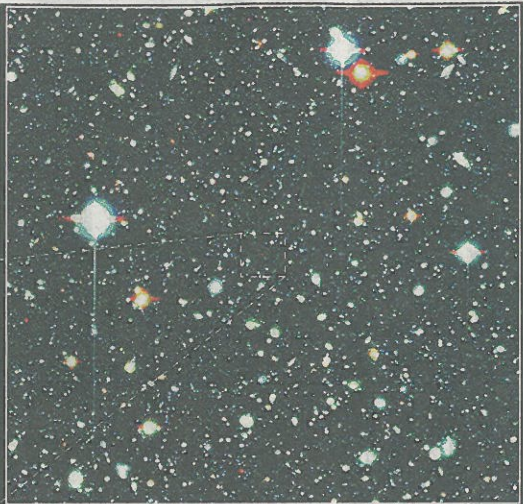
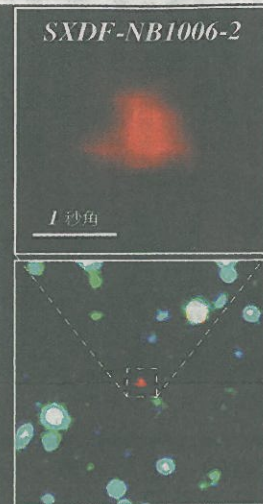


すばる望遠鏡(米ハワイ島)がとらえた129・1億光年先の銀河(左上の拡大図)——国立天文台提供



129億光年先 最遠銀河見つけた

すばる望遠鏡で
国立天文台など

地球から約百二十九億一千万光年先にある最も遠方の銀河を、すばる望遠鏡(米ハワイ島)を使った観測で見つけたと、国立天文台などのチームが四日、発表した。昨年すばる望遠鏡が発見した最遠の銀河より、さらに約四十万光年先だった。

光は一光年進むのに一年かかるため、遠方を見ることは、過去の姿を見ることになる。発見した銀河は、宇宙の誕生から約七億五千万年しかたっていないと考えられ、初期宇宙の特徴をとどめているという。

チームは、すばる望遠鏡が撮影した約五万九千個の天体から、遠方の銀河に特徴的な色の四天体を選んで詳しく分析。うち、くじらの座の方角にある一つが最遠の銀河であることを突き止めた。

宇宙は百三十七億年ほど前に誕生した後、しばらく暗黒の時代が続いた。最初、星や銀河が生まれて輝きだし、「夜明け」を迎えるころまで、何が起きたかわからなかった。発見した銀河からは、夜明けの時期に、宇宙空間が持っていた性質を読み取ることができ、宇宙の成り立ちを知る手がかりになるといふ。

一番遠い銀河発見 国立天文台など

国立天文台の家正則教授、総合研究大学院大学博士課程の渋谷隆俊さんらは4日、これまでで一番遠くにある銀河を見つけたと発表した。約12億9千万光年離れた、従来の記録を40万光年更新していることになり、

初期の宇宙の姿の解明につながる。

論文が近く米天文学誌「アストロフィジカル・ジャーナル」に掲載される。宇宙は誕生後しばらくは水素ガスの影響で霧が

なかったような光がほとんど見えない「暗黒時代」になり、その後、光が通る「夜明け」を経て今の明るい宇宙になったと考えられている。

研究チームは遠くの銀河の観測を通じて「夜明け」の時期を探るために、米ハワイにあるすばる望遠鏡に遠くの銀河に特徴的に見られる光だけを通すフィルターを付けた。約6万の天体を観測、これまで最も遠くにある銀河を発見した。

日本経済新聞

2012年(平成24年)6月5日(火曜日)

12版 科学技術 12

河の観測を通じて「夜明け」の時期を探るために、米ハワイにあるすばる望遠鏡に遠くの銀河に特徴的に見られる光だけを通すフィルターを付けた。約6万の天体を観測、これまで最も遠くにある銀河を発見した。

銀河が出す光を分析すると、水素の状態から「夜明け」が進行して少し時間がたった段階であることが分かった。

今後、ほかの銀河によって当時の宇宙の姿をより詳しくとらえる。また、次世代望遠鏡を2020年ごろに建設する国際プロジェクトも進行中で、宇宙の歴史をもっとさかのぼりたいという。